

口 絵 (掲載記事写真)



(p9) 写真-1 飼料用米品種「北陸 193 号」の穂相  
上：北陸 193 号、下：日本晴(主食用)



(p9) 写真-2 WGS 用イネ品種「たちすずか」の穂相  
上：たちすずか、下：クサノホシ(従来の飼料用イネ)



(p9) 写真-3 4-HPPD 阻害型除草剤による薬害



(p19) 写真-1 専用装置を用いた流し込み施肥



(p19) 写真-2 網袋を用いた流し込み施肥





(p22) 写真-1 飼料用米生産圃場の雑草 (左: ヒエ, 中央: イボクサ, 右: クサネム)



(p27) 写真-1 前作の麦生育中に牛糞堆肥を散布 (旧妻沼町)



(p27) 写真-2 牛糞尿を追肥に利用 (旧妻沼町)



(p27) 写真-3 牧草体系による収穫 (旧妻沼町)



(p27) 写真-4 コンバイン型専用収穫機による収穫 (美里町)



(p27) 写真-5 飼料イネを給与した限定牛乳 (左、中)  
※現在は右に統一されている



(p27) 写真-6 はまさり牛  
※生産者がリタイアしたため、現在は生産されていない。



(p31) 写真-1 養鶏飼料出荷用「ふくおこし」の収穫状況



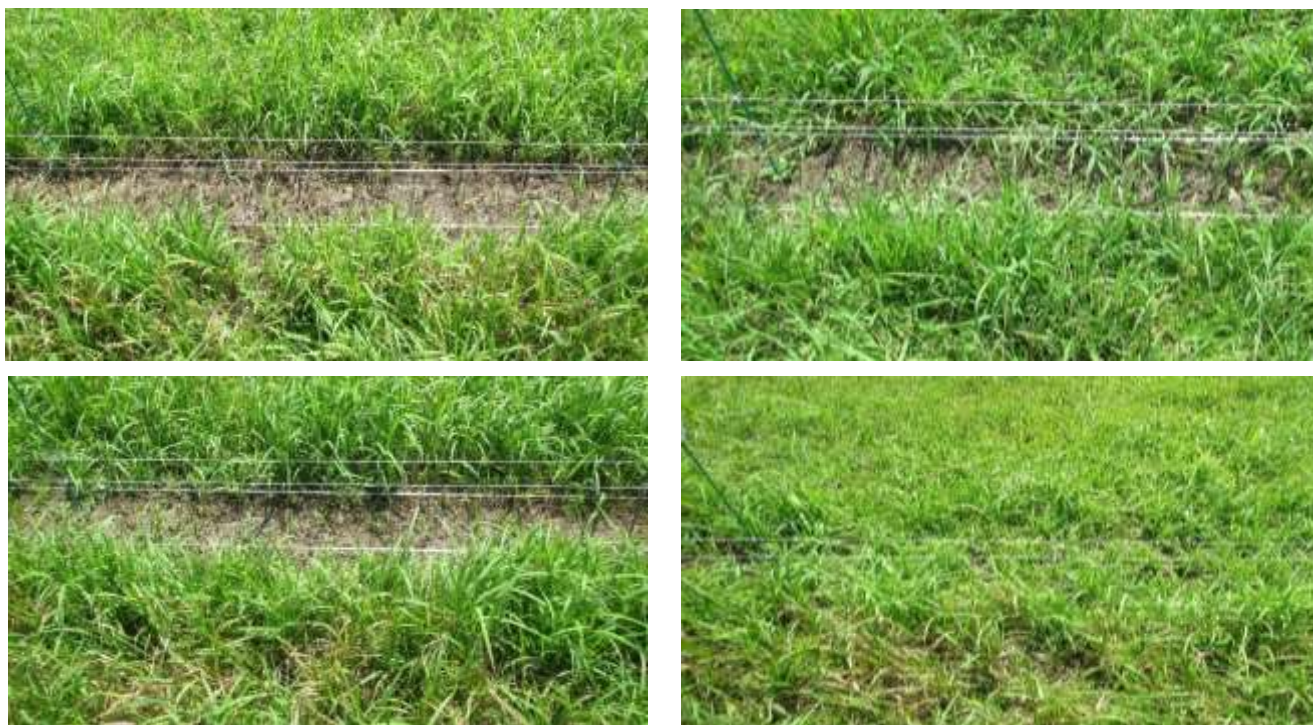
(p32) 写真-2 大型養鶏法人における飼料米給与試験 (平成 22 年)



(p32) 写真-3 飼料用イネの使用可能農薬も掲載された県防除基準



(p33) 写真-1 電気柵の下草管理不十分でイノシシに侵入された水田



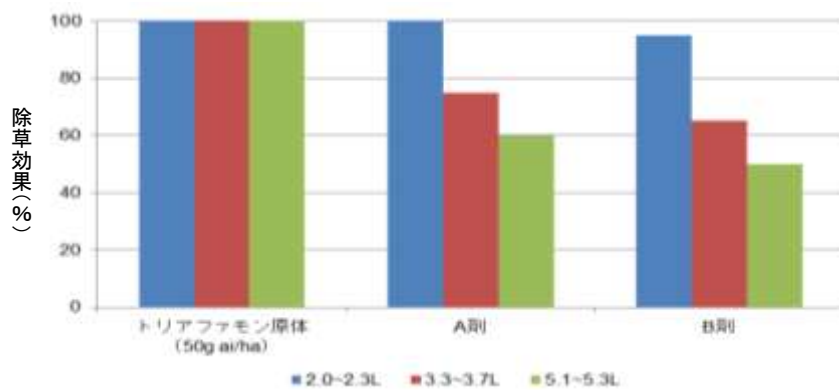
(p36) 写真-2 試験開始から1ヶ月半後の雑草の状況  
(左上: パスタ液剤2回処理 右上: グラスショート液剤2回処理 左下: ラウンドアップマックスロード液剤1回処理 右下: 無処理)



(p37) 写真-1 シズイの塊茎

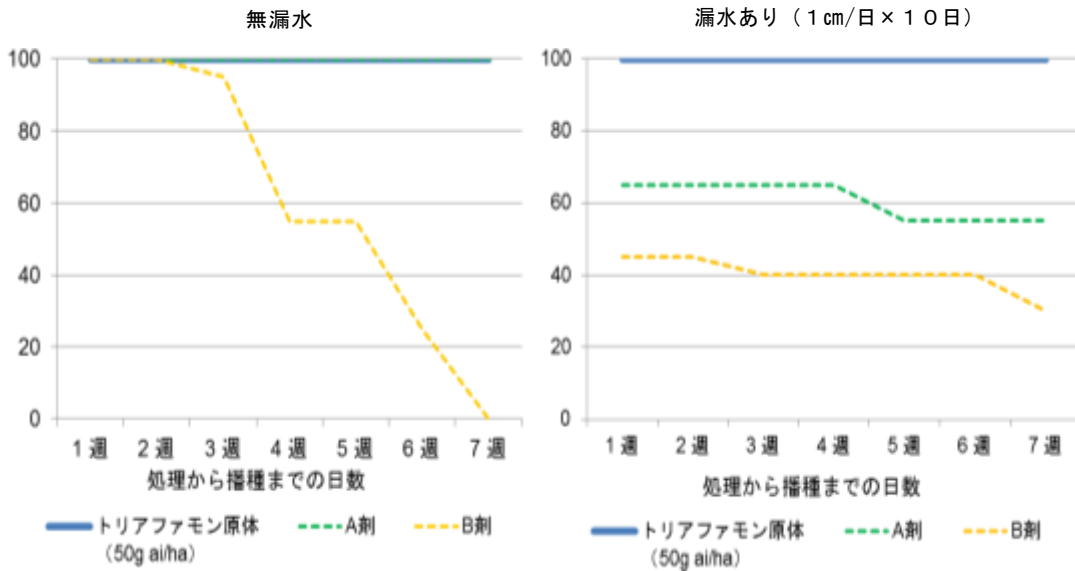


(p37) 写真-2 シズイの圃場での発生状況



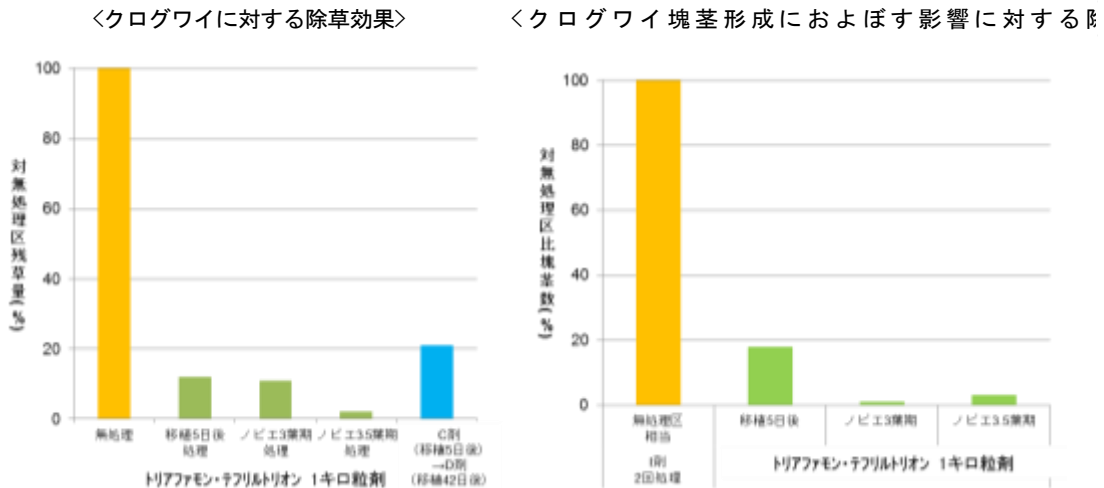
(p43) 図-3 ノビエに対する除草効果

・試験場所: バイエルクロップサイエンス(株)結城中央研究所 ・試験規模: 500cm<sup>2</sup> ・試験土壌: 軽塩土  
・処理薬量: トリアフアモン 50g ai/ha ・調査時期: 処理後約6週間 減水深1cm/日 湛水処理 (2007年)



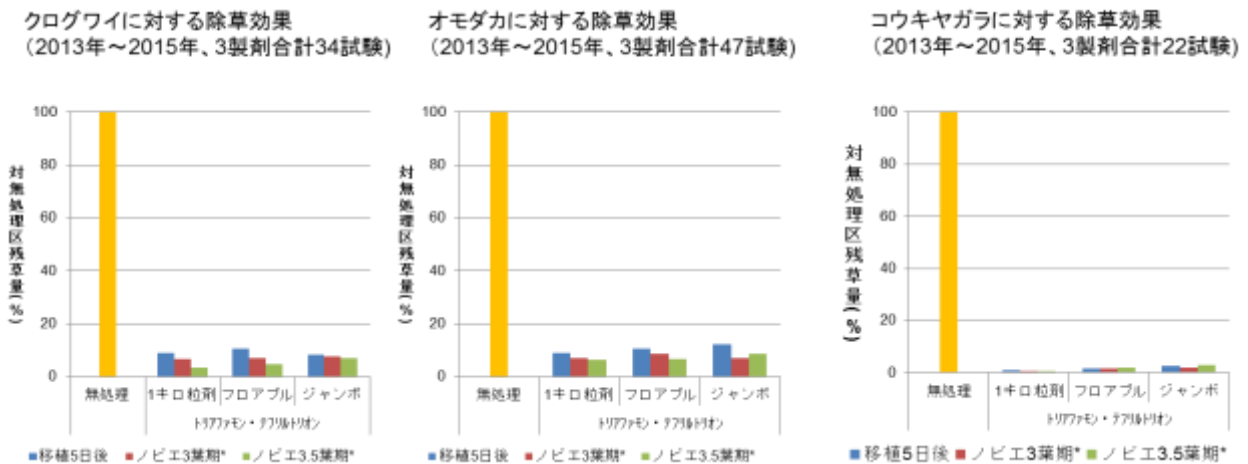
(p44) 図-4 ノビエに対する残効性

・試験場所: バイエルクロップサイエンス(株)結城中央研究所 ・試験規模: 500cm<sup>2</sup> ・試験土壌: 軽植土・処理薬量: トリアファモン 50g ai/ha  
・試験方法: 薬剤処理1~7週間後にノビエ種子を播種し、播種後4週間後に達観調査した。・漏水条件: 1cm/日 × 10日 (2007年)



(p44) 図-5 トリアファモン・テフリルトリオン混合剤の問題雑草一発処理試験でのクログワイに対する効果と塊茎形成への影響

試験年: 2013年 試験場所: 岩手県農業研究センター 移植日: 5月9日 調査日: 7月18日 (移植70日後)  
調査方法: 草丈 × 茎数で残草量を算出 塊茎掘り取り日: 2013年10月



(p45) 図-6 トリアファモン・テフリルトリオン混合剤の日植調問題雑草一発処理試験の成績

\* ジャンボはノビエ 2.5 葉期とノビエ 3 葉期



(p45) 写真-1 問題雑草一発処理剤のロゴマーク



(p46) 写真-1 残草したコナギ



(p47) 写真-2 オモダカの多発田



(p48) 写真-4 均平化され水深ムラの少ない水田



(p48) 写真-5 畦畔板を設置した畦畔



(p67) 写真-1 適2試験圃場視察の様子（静岡県農林技術研究所三ヶ野ほ場）